

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297100253		
法人名	社会福祉法人 県民厚生会		
事業所名	グループホーム きらら浜松 (南ホーム)		
所在地	静岡県浜松市南区楊子町218		
自己評価作成日	令和2年10月11日	評価結果市町村受理日	令和2年12月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajirokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&jiyosyoCd=2272300738-00&serviceCd=320&type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和2年10月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度はコロナウイルス感染拡大防止の為、今まで当たり前のようにしていた外出、行事などがすべて中止になっています。そんな中、今できることを職員全員で考えています。今までの生活スタイルにいつ戻れるかわかりませんが、元に戻った時、外出の楽しさを忘れないよう職員全員で振り返ったり、入居者様にもしっかり伝えていきます。家族様との交流も中々できませんが世の中の状況をみて法人全体で話し合いながら面会も行っています。オンラインでの面会も可能になっています。研修もオンラインでの研修の設備を整え、新たな知識を得ながらよりよいチーム作りをしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念の具現化が高く、「職員がキラキラ輝いている」ことが「利用者の笑顔」に結ばれていることが自慢の事業所です。理念は上位者が説明する機会を随時設けるほか、「理念について考える」用紙を職員に配付して意見や感想を集め、職員が「笑顔」にフォーカスしていることも確認されています。また今回のコロナ禍における運営推進会議の開催にあっては、第一回の開催延期について社内稟議をかけていることに体制の堅固さが伝わり、また当事業所の真骨頂を発揮したともいえる温かで真摯なエールがメンバーからは届いていて、日頃の丁寧な取組みや尽力を地域や関係者がしっかり受けとめていることが覗えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念は誰でもみれる所に掲示し、その意義を職員全員で共有し笑顔あふれる心地のよいグループホームを目指し実践につなげています。	理念がユニットフロアに掲示され、グループホーム会議の場でも触れ、理念に係る説明が重ねられています。また「理念について考える」を配付して意見や感想を集め、職員が「笑顔」にフォーカスしていることも確認できています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度はコロナウイルスの影響で地域の方との交流がもてていません。そんな中でも情報交換しながら地域の一員として役割を果たせるよう努めています。	地域の祭り屋台が敷地内で鳴り物を披露くださり、敬老会には園児慰問があったりなどの交流機会がなくなっています。それでも恒例のきらら祭りは感謝祭と銘打って所内のみでとし、ウクレレ演奏や腹踊りに利用者の笑顔が弾けています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年ボランティア受け入れ、職場体験の場を積極的に設けているが今年度はコロナウイルスの影響で行なえていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度会議を開催している。今年度はコロナウイルスの影響で書面での開催でも家族、地域、市の方々から意見をもらいサービス向上につなげている。	「収まったからできるんじゃない」と都度検討して、「3月と5月を書面開催」→「7月通常開催」→「9月書面開催」とこまめにコロナに対応しています。地域も何もかも中止になっていて、顔を合せて話し合うことの大切さを再確認しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃の疑問や介護保険の事など随時連絡しアドバイスして頂いている。	浜松市は運営推進会議について速やかに、かつ詳細な通達を状況に応じて幾度となく発信くださり、細やかな配慮に助けられています。研修会はリモートとなっていますが、隔月開催の介護サービス事業者連絡協議会は継続され、いずれも出席に努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止を宣言して身体拘束委員会を開催している。勉強会も行い話し合い意見の共有をしている。玄関の施錠は日中開錠している。	4月、7月、10月、1月は身体拘束廃止委員会に取組み、他の月はサービスに係る会議を開催しています。ミトン型の手袋、Y字型拘束帯、つなぎ服を実際装着して「どんな気持ちになるか」を体験するなど、実践的な場を持っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を開催し、話し合いの場を設けている。虐待に繋がりがやすいケース、グレーゾーンを考え話し合い虐待防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナ禍の為資料配布し、それぞれが理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項の説明を行い、少しでも不安な気持ちが解消されるよう、疑問点があれば納得して頂けるよう丁寧に説明して理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などに情報共有しているが、コロナ禍の為、面会制限があり定期的に電話連絡し情報交換している。また毎年アンケートも行い、その結果も開示している。	「きらら通信」で毎月利用者の様子を伝え、毎年家族アンケート、家族会を積み重ね、家族とは親交を深めています。例えば、平屋における津波の心配を告げたところ、避難用ボードを提案くださるといったことが日常に溶け込んでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回アンケートを行い、月1回会議を開催している。意見や提案を聞いている。また希望者には個人面談を行っている。	職員アンケートを定期で実施、必要であれば面談につなげており、未然に確認しあう体制がつけられています。現在会議はコロナ対応で時間短縮としているため、主に利用者の話を中心に、運営についてはレジュメの回覧で代替しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年ストレスチェックを行い、有給の取得状況、残業時間を確認している。人事考課のフィードバックを行い、個人がやりがいを感ずるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加する場を設け、会議で内容説明している。今回はコロナウイルスの影響で研修中止し資料配布し知識を高めるよう努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会の会員となり、同業者との交流していたがコロナウイルスの影響で交流できていない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族と話をし不安な事や要望を聞き本人の言い出しにくい事もできるだけ察し安心できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人家族の要望を聞き、不安なく生活できるよう丁寧な対応心掛けを行い信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の意向も受け止めながら、その方に必要と思われる事を見極め、サービスを検討し、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、ご利用者様と、食事、掃除、買い物など家事を共に行い、一つの家族のように暮らせる関係作りを築いている。今年度はコロナウイルスの影響で買い物は一緒にいけてませんが広告などをみて買うものを一緒にきめています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にも行事参加や面会等で本人と家族と一緒に過ごせる時間を作り、絆を大切に共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出、外泊などいつでもできるようになっている。コロナ禍の為今年度は行えていないがオンライン面会ができる環境である。	職員を男性役に見立てて社交ダンスを披露する人、家族が通い慣れた美容院へと送迎する人など、これまでの生活が持続するよう支援しています。また面会もビデオ通話の仕組みを敷くほか、10月からは条件付きで実現させています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係や性格を把握し、一人一人が孤立しないように職員が関わりを持って支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も関係を継続している。近隣の家族は今でも古新聞を届けてくれたり、オムツやシルバーカーなど寄付して頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常の生活、会話から本人の想いをくみとり職員同士で情報共有し希望、意向の把握に努めている。	嗜好と意向のアンケートを居室担当に配付して、利用者本人の食べたいものや行きたいところを明確とすることで話材も膨らみ、お風呂で「いく?(おちょこでお酒を飲むしぐさ)」とはっちゃける場面も見られるなど、成果が見られています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴の聞き取りを行っています。それをもとに本人との会話、家族にも情報をいただき、これまでのサービス利用の経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の会話、動作の変化を記録、申し送りし職員間で共有し心身状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月カンファレンスを行い、家族への聞き取りも定期的に行っている。大きな変化などがある時は介護計画を変更し現状に即した計画を作成している。	計画作成担当者となれる人は4名、介護支援専門員は1名と、充実した職業集団がつけられるとともに、ユニット会議の時間はいつも超過してしまう程の熱の入りようで、職員間の連携と共有は確かです。	担当者欄に職員以外の人が入るような視点が加わると、なお良いと思います。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録し、カンファレンスで問題点、気づき、工夫を話し合い、実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化に多方面からできることを考えながら柔軟に対応できるよう取り組んでいます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	回覧板、運営推進会議などで地域の情報を得ている。ボランティア受け入れも行っているが現在はコロナウイルスの影響で地域行事、ボランティアの受け入れは中止となっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、家族の希望をもとに、かかりつけ医を決定し、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、月2回の往診の他、常に適切な医療を受けられるように支援しています。	2つの協力医の訪問診療を全員が受診しており、在宅の頃からの医院に通う人はいません。立ち合うのは管理者、主任、介護支援専門員のいずれかと定め、24時間オンコールの訪問看護師とともに堅固な医療連携を築いています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護事業所と契約し、週1回の健康観察にきてもらっている。体調の変化、日々の生活を伝えアドバイスをいただいています。24時間連絡体制も整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院関係者と連絡をとりあい、情報交換し早期退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化指針、看取りに関する指針について説明している。終末期のあり方についても入居時に意向を聞いているがその時、その時に話し合いながら温かみのあるケアが提供できるように取り組んでいます。	看取りをおこなうとして「看取りに関する指針」を以て家族に説明しています。脱水症状を経て退院後、馴染んだ仲間や職員に囲まれて旅立った人は、此处での写真が遺影となり、エンゼルケアとともに帰宅した職員も集まって大勢でお見送りが叶っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアル、傷病者カードを作成し緊急時に誰もが対応できる工夫をしています。定期的に訓練も行い対応できるように努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間防災計画に火災、地震、風水害、夜間想定など一通りの訓練を組み込み訓練している。地域合同の訓練は本年度はコロナウイルスの影響で行えていませんが情報は取り合い協力体制は築けています。	3月はコロナ禍であっても防災業者に加わってもらえ、通報訓練など滞りなく実施しており、次回の11月も同じメニューで予定しています。停電には非常灯が30分点灯する設備があり、発電機の電気を使って調理をすることも出来ます。	地域とは蜜月関係にあることから、今後は独居高齢者の受入や備蓄など地域との協同に向けた取組みがあることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会を行い自分の介護を振り返りながら一人ひとりの人格を尊重し誇りプライバシーを損ねない言葉かけができるよう心掛けています。	和気藹々としたチームワーク形成があり、また介護記録には「利用者の気持ちを察してこうした」とか、「(利用者の表情に)安心した様子がある」といった向きの記述があり、職員の誠実さも垣間見え、接遇の勉強会を繰り返していることも頷けます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のさりげない会話から本人の想い、希望を聞きそれに沿えるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ本人のペースを大切に、起床、食事、排泄、入浴、就寝など気持ちよく生活できるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人希望で化粧をしたり、行事などで化粧をしています。洋服も本人と一緒に決めて着てもらっています。定期的に訪問理美容も利用し散髪しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から片付けまで一緒に行い季節の食材なども取り入れ季節を感じ楽しめるように心掛けています。季節の行事の際も、その行事に合わせた食事を提供し楽しめるよう工夫しています。	昼食だけ業者から材料が届く方式ですが、他は広告をみながら食材購入に出かけています(まだ利用者は店舗に行けていない)。年越しそば、土用の丑の鰻、ぼた餅等の行事食も盛んで、なますの千切りや盛り付けを利用者に手伝ってもらっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量など記録に残し状態に合わせた食事形態にしたり栄養補助なども使用しています。水分摂取が少ない時には好きな飲み物を提供するなどの工夫もしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その方に合わせた声掛け、介助を行い口腔内の清潔保持に努めています。毎月、歯医者からの指導も受けスタッフの知識、技術向上にも努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し本人の排泄パターンを把握し、さりげない声掛け、介助にて出来るだけトイレで排泄できるよう支援しています。	平均介護度3ですが、「2人介助ではないと…」という人は常時はいません(その日の体調による)。車いすを利用するようになったり、立位が保ちにくくなっても「トイレに座るとできるよね」と声を掛け合い、排泄チェック表を効果的に活用して失禁を無くしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	その日、その人にあわせた食材、飲み物を検討したり、日常動作の中での運動を促し便秘予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その人のタイミングで入浴できるよう声掛けしています。無理強いほしなが定期的に入浴できるよう個々に沿った支援をしています。時には音楽をかけたり入浴剤を使用しリラックス効果も増したりしています。	「週3回入れたらいいね」との考えを持ち、2回は順守しています。拒否には日や職員を替えています。同性介助の希望は今のところありません。音楽好きな人には、自宅から持参のカセットを流したり、冬至には柚子を浮かべて愉しんでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動的に過ごし夜間良眠できるよう心掛けています。体調に合わせて休息できるようになっています。就寝時、空調、照明、入床のタイミングは本人に合わせています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	Drと相談しながら薬の調整を行い薬の一覧表を作成しています。一覧表は目的、用量など誰でもわかるようになっており、誤薬がないように服薬チェック表を使用し複数の職員で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に聞き取りした生活歴、日々の会話、家族面会時にも情報交換しながら本人の嗜好品、楽しみを汲み取り、張り合いや喜びのある日々が過ごせるよう努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	例年、個別での外出、買い物に出掛けていたがコロナウイルスの影響で本年度は外出は自粛しています。施設周辺を散歩し、花をみたり外気を浴びて季節を感じています。	「食材の買い出しで利用者とスーパーマーケットへ」といった個別外出に日々励んでいましたが、コロナ禍で現在は周辺散策のみとなっており、思い出満載の「のんほいパーク」へ家族とともに再び訪問することを心待ちにしています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望により少額の現金を持っている方もいます。希望があれば立替金で買い物も可能になっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話を掛けることができます。毎年賀状と一緒に作成し出しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭を眺め、その日の天気、花を見て季節を感じられる空間になっています。掲示物も季節にあわせ作成したり季節の花を飾ったりしています。	用務員(掃除専門職員)が掃除全般をおこない、職員は気づいた箇所を補完という体制をつくり、環境衛生を担保しています。換気については、常に少し開けるようにしており、空気清浄機を各ユニット1台ずつ追加購入しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファ、廊下にも椅子があり好きな所でくつろげるよう配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた物、馴染みの物を置いてもらえるよう提案し、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしています。	畳の生活が長かった人は炬燵や座椅子を持ち込んでいますが、横になることが増え、また本を読むことも難しくなっています。今はテレビ鑑賞が主体となっており、同じように症状の進行やADLの低下で自室での過ごし方は変わるため、都度見直しをかけています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており廊下、トイレなどには手すり、感知照明がついていて安全に移動できるようになっています。部屋の場所もわかるように各居室に表札もつけています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297100253		
法人名	社会福祉法人 県民厚生会		
事業所名	グループホーム きらら浜松 (北ホーム)		
所在地	静岡県浜松市南区楊子町218		
自己評価作成日	令和2年10月11日	評価結果市町村受理日	令和2年12月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajgokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&jiyosyoCd=2272300738-00&serviceCd=320&type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和2年10月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の為、今まで当たり前のようにしていた外出、行事などがすべて中止になっています。そんな中、今できることを職員全員で考えています。今までの生活スタイルにいつ戻れるかわかりませんが、元に戻った時、外出の楽しさを忘れないよう職員全員で振り返ったり、入居者様にもしっかり伝えていきます。家族様との交流も中々できませんが世の中の状況をみて法人全体で話し合いながら面会も行っています。オンラインでの面会も可能になっています。研修もオンラインでの研修の設備を整え、新たな知識を得ながらよりよいチーム作りをしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念の具現化が高く、「職員がキラキラ輝いている」ことが「利用者の笑顔」に結ばれていることが自慢の事業所です。理念は上位者が説明する機会を随時設けるほか、「理念について考える」用紙を職員に配付して意見や感想を集め、職員が「笑顔」にフォーカスしていることも確認されています。また今回のコロナ禍における運営推進会議の開催にあっては、第一回の開催延期について社内稟議をかけていることに体制の堅固さが伝わり、また当事業所の真骨頂を発揮したともいえる温かで真摯なエールがメンバーからは届いていて、日頃の丁寧な取組みや尽力を地域や関係者がしっかり受けとめていることが覗えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念は誰でもみれる所に掲示し、その意義を職員全員で共有し笑顔あふれる心地のよいグループホームを目指し実践につなげています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度はコロナウイルスの影響で地域の方との交流がもてていません。そんな中でも情報交換しながら地域の一員として役割を果たせるよう努めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年ボランティア受け入れ、職場体験の場を積極的に設けているが今年度はコロナウイルスの影響で行なえていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度会議を開催している。今年度はコロナウイルスの影響で書面での開催でも家族、地域、市の方々から意見をもらいサービス向上につなげている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃の疑問や介護保険の事など随時連絡しアドバイスして頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止を宣言して身体拘束委員会を開催している。勉強会も行い話し合い意見の共有をしている。玄関の施錠は日中開錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を開催し、話し合いの場を設けている。虐待に繋がりがやすいケース、グレーゾーンを考え話し合い虐待防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナ禍の為資料配布し、それぞれが理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項の説明を行い、少しでも不安な気持ちが解消されるよう、疑問点があれば納得して頂けるよう丁寧に説明して理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などに情報共有しているが、コロナ禍の為、面会制限があり定期的に電話連絡し情報交換している。また毎年アンケートも行い、その結果も開示している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回アンケートを行い、月1回会議を開催している。意見や提案を聞いている。また希望者には個人面談を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年ストレスチェックを行い、有給の取得状況、残業時間を確認している。人事考課のフィードバックを行い、個人がやりがいを感じるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加する場を設け、会議で内容説明している。今回はコロナウイルスの影響で研修中止し資料配布し知識を高めるよう努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会の会員となり、同業者との交流していたがコロナウイルスの影響で交流できていない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族と話をし不安な事や要望を聞き本人の言い出しにくい事もできるだけ察し安心できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人家族の要望を聞き、不安なく生活できるよう丁寧な対応心掛けを行い信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の意向も受け止めながら、その方に必要と思われる事を見極め、サービスを検討し、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、ご利用者様と、食事、掃除、買い物など家事を共に行い、一つの家族のように暮らせる関係作りを築いている。今年度はコロナウイルスの影響で買い物は一緒にいけてませんが広告などをみて買うものを一緒にきめています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にも行事参加や面会等で本人と家族と一緒に過ごせる時間を作り、絆を大切に共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出、外泊などいつでもできるようになっている。コロナ禍の為今年度は行えていないがオンライン面会ができる環境である。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係や性格を把握し、一人一人が孤立しないように職員が関りを持って支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も関係を継続している。近隣の家族は今でも古新聞を届けてくれたり、オムツやシルバーカーなど寄付して頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常の生活、会話から本人の想いをくみとり職員同士で情報共有し希望、意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴の聞き取りを行っています。それをもとに本人との会話、家族にも情報をいただき、これまでのサービス利用の経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の会話、動作の変化を記録、申し送りし職員間で共有し心身状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月カンファレンスを行い、家族への聞き取りも定期的に行っている。大きな変化などがある時は介護計画を変更し現状に即した計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録し、カンファレンスで問題点、気づき、工夫を話し合い、実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化に多方向からできることを考えながら柔軟に対応できるよう取り組んでいます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	回覧板、運営推進会議などで地域の情報を得ている。ボランティア受け入れも行っているが現在はコロナウイルスの影響で地域行事、ボランティアの受け入れは中止となっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、家族の希望をもとに、かかりつけ医を決定し、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、月2回の往診の他、常に適切な医療をうけられるように支援しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護事業所と契約し、週1回の健康観察にきてもらっている。体調の変化、日々の生活を伝えアドバイスをいただいています。24時間連絡体制も整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院関係者と連絡をとりあい、情報交換し早期退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化指針、看取りに関する指針について説明している。終末期のあり方についても入居時に意向を聞いているがその時、その時に話し合いながら温かみのあるケアが提供できるように取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアル、傷病者カードを作成し緊急時に誰もが対応できる工夫をしています。定期的に訓練も行い対応できるように努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間防災計画に火災、地震、風水害、夜間想定など一通りの訓練を組み込み訓練している。地域合同の訓練は本年度はコロナウイルスの影響で行えていませんが情報は取り合い協力体制は築いています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会を行い自分の介護を振り返りながら一人ひとりの人格を尊重し誇りプライバシーを損ねない言葉かけができるよう心掛けています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のさりげない会話から本人の思い、希望を聞きそれに沿えるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ本人のペースを大切に、起床、食事、排泄、入浴、就寝など気持ちよく生活できるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人希望で化粧をしたり、行事などでも化粧をしています。洋服も本人と一緒に決めて着てもらっています。定期的に訪問理美容も利用し散髪しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から片付けまで一緒に行い季節の食材なども取り入れ季節を感じ楽しめるように心掛けています。季節の行事の際も、その行事に合わせた食事を提供し楽しめるよう工夫しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量など記録に残し状態に合わせた食事形態にしたり栄養補助なども使用しています。水分摂取が少ない時には好きな飲み物を提供するなどの工夫もしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その方に合わせた声掛け、介助を行い口腔内の清潔保持に努めています。毎月、歯医者からの指導も受けスタッフの知識、技術向上にも努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し本人の排泄パターンを把握し、さりげない声掛け、介助にて出来るだけトイレで排泄できるよう支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	その日、その人にあわせた食材、飲み物を検討したり、日常動作の中での運動を促し便秘予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その人のタイミングで入浴できるよう声掛けしています。無理強いはいしませんが定期的に入浴できるよう個々に沿った支援をしています。時には音楽をかけたり入浴剤を使用しリラックス効果も増したりしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動的に過ごし夜間良眠できるよう心掛けています。体調に合わせて休息できるようになっています。就寝時、空調、照明、入床のタイミングは本人に合わせています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	Drと相談しながら薬の調整を行い薬の一覧表を作成しています。一覧表は目的、用量など誰でもわかるようになっており、誤薬がないように服薬チェック表を使用し複数の職員で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に聞き取りした生活歴、日々の会話、家族面会時にも情報交換しながら本人の嗜好品、楽しみを汲み取り、張り合いや喜びのある日々が過ごせるよう努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	例年、個別での外出、買い物に出掛けていたがコロナウイルスの影響で本年度は外出は自粛しています。施設周辺を散歩し、花をみたり外気を浴びて季節を感じています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望により少額の現金を持っている方もいます。希望があれば立替金で買い物も可能になっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話を掛けることが出来ます。毎年賀状と一緒に作成し出しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭を眺め、その日の天気、花を見て季節を感じられる空間になっています。掲示物も季節にあわせ作成したり季節の花を飾ったりしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファ、廊下にも椅子があり好きな所でくつろげるよう配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた物、馴染みの物を置いてもらえるよう提案し、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており廊下、トイレなどには手すり、感知照明がついていて安全に移動できるようになっています。部屋の場所もわかるように各居室に表札もつけています。		